

Center for China and Asian Studies
College of Economics, Nihon University

NEWS LETTER

No. 7
December, 2010

Contents

I 学術講演会

「市場主義の現段階：新自由主義のインパクト」

寺西 重郎（日本大学商学部教授）

II 国際シンポジウム

「アジアの信用リスク標準化モデルの構築についての研究」

III 共同研究の紹介

「新シルクロード地域の経済発展に関する研究」

III 研究交流

海外研究者の来訪



I 学術講演会

「市場主義の現段階:新自由主義のインパクト」

寺西 重郎 (日本大学商学部教授)

【講演要旨】

本講演の目的は、経済学の視点から新自由主義を再考することにより、市場主義が現在の段階に位置しているのかを検討することにある。特に、ポスト・モダンにおけるリクイッドな社会・個人主義化・公共の崩壊等の問題には経済学の性質も関わっているのではないか、という問題意識の下で検討を行った。

自由放任主義を特徴とした19世紀型自由主義の後、第二次世界大戦後から1970年代ごろまではケインズ主義に代表される「大きな政府」、「福祉国家」の体制が主流であった。

一方、その後の新自由主義は政府の積極的な民間介入に反対するとともに、資本主義下の自由競争秩序を重んじる立場および考え方が中心となっている。具体的には政府の能力の否定、自由放任主義の否定が特徴として挙げられる。フリードマンは、「インセンティブの毀損・生産効率低下・官僚組織の肥大化」を指摘し、政府の能力を否定した。さらに、ハイエクは「19世紀自由主義の自由放任主義が社会主義・全体主義の台頭をもたらした。」と考え、自由放任主義への反省を示している。

同時に、マクロ経済学の視点からの議論も進んでいた。主な議論として以下の2点がある。1つ目は、政策無効性命題は重要ではないということである。フリードマンは、インフレ期待を織り込んだフィリップス曲線を考え、この効果を考えると金融政策は無効であるとし、1970年代のスタグフレーションはケインズ理論では説明不可能と言及した。しかし、この研究に対して、S.Fisher, Bruno and Sachsはサプライ・ショックを取り入れるとケインズ的枠組みで説明可能であり、またフリードマンの主張する変数(インフレの変化率)は有意でなくなると言及している。この議論から、期待への働きかけの重要性、時間軸に沿った政策整合性、政策効果の厚生評価、計量モデルのパラメーターの政策依存性といった様々な重要な発見がなされた。

2つ目は、ハイエクの自制的秩序、市場モデルの深さである。ハイエクは限定合理性、不完全情報、利他主義といった点から市場と個人の関係について言及し、「社会は多くの人の行為の結果ではあるが人間的設計の結果ではない」と考え、利他主義は嫉妬・罪悪感などの感情はすべて個人の効用関数により評価され、個人の選択に委ねられるとしている。

次にミクロ経済学の視点から上記の議論を考えているものとしてオイラー方程式がある。オイラー方程式は完全な資金市場と保険市場を仮定して

おり、このモデルでは企業と政府は個人の擬制であり、また代表的な個人の行動によってマクロ経済が記述しうる、つまり完全な方法的個人主義が成立している。

最後にアメリカの個人主義化の進展を考える。ロバート・ベラーは20世紀後半のアメリカの個人に対するイメージを、彼らは自分たちの成功は政治・政府・他の市民からは無関係に市場競争化を通じて個人の努力によって得たものとして考えているとした。その理由として官僚的な産業法人の制覇と全国的職業市場の成立、地理的な移動性のもとの郊外化現象とライフ・スタイル・エンクレイブ、リバタリアニズムのもとの多元主義攻撃とビジネスの特権的利益集団としての地位などがあるとしている。

(2010年7月7日)

II 国際シンポジウム

「アジアの信用リスク標準化モデルの構築についての研究」

「アジアの信用リスク標準化モデルの構築についての研究」(黒沢プロジェクト)では、第4回シンポジウムを下記により開催した。

1. 日時: 2010年3月6日(土曜日)
午後1時半~5時
(日本大学経済学部5号館4階会議室)
使用言語: 英語
2. 第4回シンポジウムの内容
 - (1) 開会の辞: 研究プロジェクト代表
黒沢 義孝 (日本大学経済学部教授)
 - (2) 報告1:
「バングラデシュの信用リスクと格付け」
水野 満 (日本大学グローバルビジネス研究科教授)
コメント1:
Mohammed Tajul Islam (Manager, Rating and Criteria Development Department Credit Rating Agency of Bangladesh Limited)
コメント2:
M. Sadiqul Islam (Professor at Department of Finance, University of Dhaka)
 - (3) 報告2: 「韓国の信用リスクと格付け」
Hyesun Kim (Senior Research Fellow, KDB Research Institute)
コメント: 三井 秀俊 (日本大学経済学部准教授)
 - (4) 報告3: 「タイの信用リスクと格付け」
奥田 英信 (一橋大学教授)

コメント：Saovanee Chantapong (Dr. Team Leader, Economic Intelligence Team, Domestic Economy Department, Monetary Policy Group, Bank of Thailand)

(5) 総合ディスカッション

3. プロジェクト研究の推移と今後の予定

本研究はアジア11カ国の信用リスクの推定方法と格付けの標準化の可能性についての3年間の研究である。2007年4月以降4回のシンポジウムを開催し11カ国の「資本市場および信用リスクと格付け」の報告とコメントをすべて終了した。2010年4月以降、研究代表者を含む7名の執筆者がそれぞれ担当別の論文を作成し、英文による書籍を出版する予定である。アジアにおける信用リスクと格付けの重要性はアジア通貨危機（1997年）以降、ASEAN諸国およびアジア開発銀行において強く認識されたが、資本市場における情報の非対称性を取り除く役割を担う格付機関の育成は容易ではない。本研究は格付機関による信用リスクの推定方法とその標準化について調査研究を行うものであり、アジアの資本市場の発展の一助となることを期待している。（黒沢 義孝）

III 共同研究の紹介

「新シルクロード地域の経済発展に関する研究」

■ 研究期間

平成22年4月1日～平成25年3月31日

■ 研究内容

近年、ユーラシア大陸輸送網の整備における一連の動きは、中国、ロシア、中央アジアが抱く開発の経済効果に対する大きな期待感と密接に関係しているだけでなく、ユーラシア大陸の東西両端にある日韓や欧州も、中央アジアの資源開発、拡大する中国および中央アジア市場への浸透、さらに、そこに存在する廉価労働力を利用するために、ユーラシア・ランド・ブリッジという輸送ルートの開発に注目している。

このような各関係国の利益錯綜の中で、ユーラシア大陸の中間に位置する内陸の国々および地域の経済発展は可能であるか、また如何なる形で実現するのであろうか。さらに、如何なる開発戦略を取るべきか、といった一連の問題を、本プロジェクトの研究を通じて解明することを期待している。同時に、それらの国・地域の経済実態を反映し、実証研究に利用可能なデータベースの構築も研究成果の一部として見込んでいる。

■ 活動状況

2月16日 ウズベキスタン世界経済外交大学の研究分担者らと打ち合わせ

2月25日 中国の陝西師範大学の研究分担者らと打ち合わせ

5月30日 日本国内の研究分担者打ち合わせ会議

8月31日～9月9日

ウルムチ、アラシャンコウ、ホルゴス、イーニン現地調査

11月20日 日本大学の研究分担者の研究発表会と打ち合わせ

■ 研究分担者

日本大学経済学部

呉 逸良（日本大学経済学部准教授）

本多 光雄（日本大学経済学部教授）

池本 修一（日本大学経済学部教授）

辻 忠博（日本大学経済学部教授）

井尻 直彦（日本大学経済学部准教授）

前野 高章（日本大学経済学部助手）

陸 亦群（日本大学通信教育部准教授）

秋山 憲治（神奈川大学経済学部教授）

鈴木 清巳（京都産業大学外国語学部教授）

山本 尚史（国際教養学大学国際教養部准教授）

張 乃麗（中国山東大学教授）

李 忠民（中国陝西師範大学教授）

黄 湛冰（中国陝西師範大学准教授）

Mukhamediyev Bulat (Head of Macro and Microeconomics Department of Kazakh National University カザフ国立大学Professor)

Abdujbar Rasulov (Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Uzbekistan University of World Economy and Diplomacy 世界経済外交大学 Professor)

Mirodil Mirzakhmedov (Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Uzbekistan University of World Economy and Diplomacy 世界経済外交大学 Assistant Professor)

(呉 逸良)

IV 研究交流

海外研究者ご来訪

平成22年度から中国・アジア研究センターの新研究プロジェクト「新シルクロード地域の経済発展に関する研究」がスタートした。この研究は中国や中央アジアなどの地域経済にも関わっているので、海外専門家の参加も望まれている。2月に共同研究の打ち合わせなどの事由でウズベキスタンと中国の専門家を招いた。

ウズベキスタン世界経済外交大学 (Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Uzbekistan University of World Economy and Diplomacy, UWED)

■ 期 間

2月15日～2月19日

■ 来訪者

Abdujabar Rasulov (Professor, Head of Mathematical modeling in Department of Economics, Coordinator & manager from UWED Team)

Matyakub Bakoev (Professor of Mathematical modeling in Department of Economics, member of UWED team)

Zakirkhodja Tadjikhojaev (Professor, Deputy Director of State testing center under Cabinet of Ministers of the Uzbekistan, member of team)

■ 訪問活動内容

- ・ 経済学部長及び本センター長を表敬訪問
- ・ Rasulov教授とKhodjaev教授の研究発表
- ・ 『新シルクロード地域の経済発展に関する研究』プロジェクトに関する打ち合わせ
- ・ 本センターとUWEDの研究センターの研究交流に関する会議

陝西師範大学 (中国・西安)

■ 期 間

2月24日～2月28日

■ 来訪者

李 忠民 (国際商学院院長, 教授)

黄 湛冰 (国際商学院大関中発展研究所所長, 副教授)

刘 育紅 (国際商学院大関中発展研究所研究員)

■ 訪問活動内容

- ・ 経済学部長を表敬訪問
- ・ 黄湛冰教授と刘育紅・李忠民教授の研究発表
- ・ 『新シルクロード地域の経済発展に関する研究』プロジェクトに関する打ち合わせ

(呉 逸良)

